

第5回尾張旭市交通問題対策協議会

1 開催日時

平成15年10月27日（月）

開会 午前10時

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂2

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

委員：大澤一夫、大矢英樹、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、加藤桃代、
近藤重男、櫻井栄二、寺田千珠子、服部正勝、林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

4 議題等

- (1) 第4回目の会議の概要について
- (2) 公共交通移動実態調査の内容について
- (3) 高齢者タクシー助成制度の実態報告（中間報告）
- (4) 事例視察の意見交換について
- (5) その他

5 会議の要旨

(1) 第4回目の会議の概要について

第4回の協議会会議概要の内容確認。インターネット等での会議概要公表の了承を得る。

(2) 公共交通移動実態調査の内容について

◆市民3,000人を対象のアンケート調査について◆

このアンケートは市民の公共交通に対する意見や日常的な移動の実態を調査することにより、市民の方々にとって利用しやすく便利な地域交通の政策作りの基礎とする重要な調査です。調査票は、白色と青色の用紙があります。

白色用紙：宛名のご本人に記入してもらう。

青色用紙：宛名のご本人が自動車を運転している場合で、ご家族の中に自動車を運転しない方がおられる場合に、そのご家族の方に記入してもらう。

行動調査：①平日（1日分）の行動記録

②普段よく行く場所への、交通手段と利用頻度

③公共交通の利用の有無 …等

意識調査：①尾張旭市の実施しているタクシー助成制度についての考え

②路線バス減少についての考え

③環境と交通についての考え

④市の交通施策についての考え …等

属性調査：①年齢

②性別

③職業

④運転免許の有無

⑤自由に利用できる自動車の有無

⑥家族が運転する自動車での送り迎えの有無

【質問・意見】

- 白と青の用紙が、どちらを書いてよいのか大変分かりづらいので、分かりやすくしてください。
- 白色用紙は宛名の本人に答えてもらうという事が集計上重要なので、説明を分かりやすく入れてください。
- 依頼文は読まずに回答を始めるという人が多いと思うので、回答用紙だけで分かるような工夫をしてほしい。

＜このアンケートは10月30日に発送済み。11月10日までに返送してもらい集計、分析する。＞

(3) 高齢者タクシー助成制度の実態報告（中間報告）

タクシーチケットを使用された利用者について、出発点から目的地を集計中です。

(4) 事例視察の意見交換について

＜多治見市コミュニティバスと西春町くるくるタクシーを視察しての感想及び全体的意見＞

- 考えるのは、まずバスがいるのかいないのか。必ず必要な人がいるので考えなければならないが、名鉄バスと全く同じではだめである。次に、交通困難者について考えるか、そうでない人について考えるか、で方法が分かれてくる。

西春町のくるくるタクシーは、時間が許す限り行き先の自由が利く。バスの概念を越えた細かい走り方である。利用者が多いならバスだと思うが、利用者が少ないならタクシーで移動困難者の足を考えた方がいいと思う。

- 多治見市のバスは結局3, 4人しか乗っていなかった。西春町の方が尾張旭市に近い気がする。乗用車でもすれ違うのが大変そうな道も通れた。倉庫のような所を待合室にして有効に使われていた。
- 予算があれば、多治見市のようなバスがいいと思う。前山団地の人達にとっては、重要だった。そうすると、今の尾張旭市のタクシーチケットはどうするのか。(バスとタクシーチケットと)抱き合わせで考えていけるならいいが、どちらかしかできなくて、体の不自由な高齢者が取り残されるとかわいそうだと思った。
- 西春町のようなジャンボタクシー車両では、輸送量が少ない。いつも同じ顔ぶれで乗っている。尾張旭市で使うと、ニーズに合わない気がする。尾張旭市は目的をどうするかが大事。
- 基本目的と将来性。通勤・通学まで対象とするか、とりあえず弱者のためと絞り込むかをはっきりすれば、自ずから方向は見えてくる。西春町では経費の1割が運賃と聞いたが、1割では「受益者負担」から外れている。尾張旭市は本当に交通の便が悪いのか?地域的には悪い所もあるが、うちの市はそんなに悪いとは思えない。本当に交通の便が悪くなったと思える頃にまた別のシステムも考えられるだろうから、当面タクシーチケットとコミュニティバスでやっていけるといいと思う。何がなかで、バスかタクシーか、結果として出てくるから、目的に重点を置いてはっきりしていくといい。
- 視察では、利用している人のありがたいという声は分かったが、利用していない人の声はわからなかった。システムが分からないから利用していないのだろうか。どちらも住民に伝わっていないのでは。
- 利用者が少ないと感じた。お年よりは、当てもないのに外に出ない。仮に尾張旭市でバスかタクシーを運行しても、市内全域を網羅できる訳がなく、あっちを立てればこっちが立たずで、難しいと思う。
- 多治見市に知り合いがいるので、バスについて聞いたが、「年を取ってきたので、バスはありがたい」という話だった。休日用のバス(観光ルート)も、市外の友達と利用したりしてよかったと聞いている。視察に行ったのが3時過ぎだったので乗客が少なかったのでは。だいたい利用は午前中が多い。西春町のくるくるタクシーは、一つの方法とは思いますが、普段使う人に専用されて、それ以外の人が使えない雰囲気がある。旭台の自治会で市長とのふれあいトークがあり、旭台では「足がほしい」という要望が多かった。
- 西春町は、地域での要求はなかったようだが動き出したのは、首長のやる気が大きい。多治見市は前山団地の利用者が多かった。もともとバスがなかつ

た所で、住んでいる人も高齢化しており、道は狭く坂が多いところ。駐車違反の車があってはとても通れないが、地域が会合を開いて協力を求めた。このバスは試行で、利用しないとなくなってしまう。地域で利用しようとする気運が高い。

仮に、尾張旭市でやるにしても地域の話し合いは重要である。皆で育てていく気運がないと、長く続かない。西春町は地域沿線の医者、スーパーなどとの関連が弱かった。（チケット販売を依頼して断られたとか。）

事前の話を通じさせておくのも大事だと思った。しばらく、運行前、運行後の協議もやっていかないといけないと思った。

- どちらもトップダウンでできた。尾張旭市はずいぶん民主的だ。バスやタクシーを走らせるのに、曜日によってあったりなかったりするの、分かりづらかった。
- 費用対効果を考えなければならないが、だからと言って足の不便な地域のこと、絶対必要な人のことも考えなければ。アンケートを見ながら尾張旭市はどうしたらいいか、考えたい。しかし実行に移すには、市長の判断が一番重要である。
- 私の住む地域（尾張旭市の西部）では、市民祭の巡回バスも回ってこない。こういう地域にとっては、西春町のようなタクシーも参考になると思った。
- 財政のないところで考えれば西春町のくるくるタクシーだ。車、人の管理は委託だし、停留所も一切ない。ただ目的が高齢者や障害者等が対象だからそのようなのであるが、利用者が固定的である。住民全体を考えていない。時間や車の大きさを考えないと、尾張旭市では無理だと思う。多治見市は1900万円（試行期間の全費用）だった。実証実験として補助が半分つく。実際運行が始まると補助はなくなる。

これからこの協議会で、案を2つや3つは作り、市議会で決定と思うが、市長の強い姿勢がないと実現は不可能。やらせるような案をつくっていかないといけない。事務局は今から市長や議会に話をしておかないと実現できない。

市長の強い意思をお願いしたい。市の幹部や議員にバス運行の話を知ると、本市では「そんなもん、できない」という意見が圧倒的に多い。いざ運行させようとしてもその実現は難しい。

本当に説得できる資料を作らないと。そして常日頃から上に説得していかないと無理。せつかく作ったとしても続かないよ。余程心してかからないと。

- 顧問 利用者は、最初は少ない。三好町は最初の1年間は1便あたり5.5～8人前後だったが、今は21人前後乗る。半年や1年では乗客は増えない。なぜなら皆、車の生活に慣れてしまっているから。この30年間かけて既存路線のバスは利用者はがた落ち、それを1年で回復するのはちょっと難しい。

西春町は愛知県で始めてこういう事業に取り組んだ、いわば風穴を開けた所。最初から100点はとれないから、やりながら練っていく。この協議会の協議期間として設定した来年2月まであまり時間はありませんが、いい事例をミックスしたりして、意見を出していきましょう。

(5) その他

協議会の日程を1日分追加します。(平成16年2月24日 10:00～)